

高校生が保育体験

富士東高が市内7カ所で

富士東高1年生は19日、保育体験を市内の幼稚園や保育園、認定こども園7カ所で行った。

幼児との触れ合い体験を通じ、命の尊さを知ってもらう狙いで実施。事前に家庭科の授業内で、幼児の発育とできるようなる行動特徴などを学習した上で、グループごとにオリジナルの遊びを考案した。

このうち、たかおかこども園(渡邊宏行園長)には40人が訪れ、2歳児から年長までの各クラスを3〜4人で担当。事前に考えてきた遊びやボールに入るとの着替えの手伝いなど、幼児と直接触れ合いながら交流の時間を過ごした。

年長のクラスでは、塗り絵や折り紙、しりとり、ハンカチ落としといった遊びが盛り込まれたほか、園児たちが普段から行う手遊びを高校生も一緒に楽しむ生徒



年長児としりとりを楽しむ生徒

て楽しみ笑顔を広げた。年少クラスを担当した松川岬矢さんは「輪投げや紙飛行機作りに、子供たちが笑顔で喜んでくれてよかった。分からないことを素直に質問してきて、好奇心旺盛な子供たちと一緒に遊べて楽しい」と感想を話した。

渡邊園長は「高校生との交流は子供たちの刺激になり楽しんでいれると思う。高校生には生の幼児教育を体験してもらい、お互い新しい経験にしてほしい」と思いを語った。